投　稿　規　定

論文の種類

本誌は日本てんかん学会北海道地方会の機関誌として、てんかん学の発展に寄与することを目的とし、てんかんおよびこれに関連する領域についての原著論文、総説などを掲載する。原則として総説の著者は本編集委員会が依頼する。

投稿者

本誌への投稿は、共著者を含め、原則として日本てんかん学会北海道地方会の会員にかぎる。論文の投稿に当たっては、共著者全員の承諾書を添える。

論文の採否

投稿論文の採否は、所定の査読を経て編集委員会で決定される。他紙に掲載ずみの論文、あるいは電子メディア、インターネット上で第三者の管理を受けて正式に公開されたとみなされる論文は受理されない。

論文の著作権

掲載された論文等の著作権は、日本てんかん学会北海道地方会に帰属する。

倫理規定

人を対象とした研究は『ヘルシンキ宣言（以後の改訂を含む)』に、また動物実験は『大学における動物実験の実施に関する基本的名考え方について（日本学術審議会)』、およびこれらに準じる指針等あるいは所属施設の倫理委員会の規定に沿って遵守がなされていなければならない。特に人を対象とする研究や報告は、対象となる患者等の匿名性を十分守らなければならない。

なお、ヒトゲノムに関する研究については、各施設あるいは関係者省庁等から出された倫理規定に沿って行われることが必要であり、その旨を本文中に明記すること。

利益相反

「一般社団法人日本てんかん学会臨床研究の利益相反（COI）に関する指針と細則」(2012年発行以後の機関誌「てんかん研究」毎年巻末参照）に則って投稿すること。

原稿の体裁

投稿論文は要旨、序論、方法、結果、考察、文献を含み、本文・写真・図・表は下記の要領で記載し、電子化した原稿（Wordファイルで保存された本文、およびTIFF形式もしくはJPEG形式（300 dpi）で保存された図等）を提出するものとする。

表紙：論文表題、著者の姓名、所属、所在地を和英併記し、第1枚目とする。

要旨:すべての論文の和文要旨は400字程度とし、第2枚目とする。英文要旨は表題、著者名、所属の他に、本文200語程度を含み、ダブルスペースでA4判サイズの別紙にタイプし、最後の一枚とする。英文要旨は、英語を母国語とする人、あるいは、高い英語教育を受けた人の校閲を受けた後に提出することを原則とする。

Key Words：5語（英語）を付すこと。

本文：

1. 論文の長さは本文、文献、図表を合わせて、原著論文については8,000字以内、総説は16,000字以内とする。A4判サイズの用紙を用いて、ワープロによる左横書きとする。原則として10-12ポイントの活字を用い、行間を数㎜程度空けること。

Presented by Medical*Online

2. てんかんに関する用語は原則として日本てんかん学会用語集改訂版に準拠した表現を用いる。専門用語以外は常用漢字および平かな（現代かな遣い）を用いる。外国語はドイツ語および固有名詞以外は小文字とする。
3. 数字は算用数字を用いる。学術用語は各学会で定めた用語を用い、抗てんかん薬の略名はてんかん研究（1988、6、126）に記載のあるものについてはこれを参照のうえ用いる。

文献：本文・図・表に用いられたもののみを引用順にあげ、文献番号を引用箇所の右肩につける1,2,3)。雑誌は**著者氏名．題名．雑誌名**（スペース）**発行西暦年；巻：引用頁．**の順とする。著者が7名以上の場合は最初の6名で打ち切り、**ら．**または，**et al.**をつける。最後の著者の前にandを入れず、名の省略記号はつけない。雑誌名は医学中央雑誌、Index Medicusの略名に従い、省略記号はつけない。単行本は**著者氏名．書名．版数**（2版以降の場合）**．発行地：発行社，西暦年：引用頁．**の順とする。編著本は**著者氏名．題名．In：**（欧文の場合）**編者名，ed(s)**（欧文の場合）**．書名．版数**（2版以降の場合）**．発行地：発行社，西暦年：**引用頁．の順とする。抄録は雑誌に掲載されたものか、データベースより閲覧可能なものに限り、題名の後に（**会**）または（**abstr**）をつける。文献を収録している雑誌・単行本がCD-ROMやDVDなどの電子媒体の場合は、印刷物に準じた記載をおこない、最後に媒体種類をカッコにいれて（CD-ROM）のように付記する。文献がインターネット上の電子ジャーナルなどのオンラインメディアの場合は公的機関か出版社などの第三者機関によって公開されたものに限定し、その記載は印刷物に準じたものの最後に（オンライン）または（online）（欧文の場合）と追記し、さらに参照URLを入手先<URL>またはavailable from <URL>（欧文の場合）、入手日付を西暦で（参照yyyy-mm-dd）または（accessed yyyy-mm-dd）（欧文の場合）と記述する。

雑　誌　例：1) 内山　真，渥美義賢，熊倉徹雄，菅野圭樹，上杉秀二，一瀬邦弘，ら．Lennox-Gastaut症候群の終夜睡眠ポリグラフィ―recruiting rhythm 出現時のポリグラム指標の変化について―．精神経誌 1987; 89: 323-336.

2) Zentner J, Hufnagel A, Wolf HK, Ostertun B, Behrens E, Campos MG, et al. Surgical treatment of temporal lobe epilepsy; clinical, radiological, and histopathological findings in 178 patients. J Neurol Neurosurg Psychiatry 1995; 58: 666-673.

単行本例：3) 大熊輝雄．臨床脳波学．第3版．東京：医学書院，1983:111-135.

4) Eadie MJ, Tyrer JH. Anticonvulsant therapy; Pharmacological basis and practice. 2nded. Edinburgh, London, New York: Churchill Livingstone, 1980: 132-162.

編著本例：5) 和田豊治，扇谷　明，てんかん学の歴史，概念，定義．秋元波留夫，山内俊雄編．てんかん学．東京：岩崎学術出版，1984: 29-37.

6) Frank G, Maquet P, Sadzot B, Salmon E,　Debets R, Dive D, et al. Contribution of　positron emission tomography to the inves-tigation of epilepsies of frontal lobe origin. In: Chauvel P, Delgado-Escueta AV, Halgren E, Bancaud J, eds. Frontal lobe　seizures and epilepsies (Advances in Neurology 57) . New York: Raven Press, 1992: 471-485.

電子媒体例：7) 金子　裕，渡辺英寿，真柳佳昭，鈴木一郎，桐野高明．脳磁図によるてんかん外科の術前評価についての研究．てんかん治療研究振興財団研究年報，1995; 7: 189-193,（CD-　ROM）.

オンラインメディア例：

8) 田中尚朗，武田洋司，中村文裕，小林淳子，出店正隆，榊原　聡，ら．FDG-PET検査において局在所見がみられた後頭葉てんかんの1症例．てんかん研究　2001; 19: 126-132.（オンライン）入手先〈http://jjes.jstage.jst.go.jp/ja/〉，（参照

Presented by Medical*Online

2002-05-31）.
9) Zaatreh MM, Spencer DD, Thompson JL, Blu-menfeld H, Novotny EJ, Mattson RH, et al. Frontal lobe tumoral epilepsy: clinical, neurophysiologic features and predictors of surgical outcome. Epilepsia 2002: 727-73. (Online) available from <http://blackwellscience.com/journals/epilepsia/index.html>, (accessed 2002-07-12）.

写真・図・表：

写真・図・表1枚は400字に相当するものとする。写真・図には図1、表には表1などと番号をつけ、別紙にこれらの表題および必要な説明をつける。

費　用

カラー図版は別に実費を請求することがある。

原稿送付先

〒078-8510　旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号　旭川医科大学医学部精神医学講座
「てんかんをめぐって」編集委員会事務局
E-mail: chibas@asahikawa-med.ac.jp

編　集　方　針

1) 本誌への投稿は、共著者を含め、原則として日本てんかん学会北海道地方会の会員に限る。投稿論文の著者が複数である場合、共著者全員の投稿承諾書を提出する。

2) 掲載論文（原著論文）は、基礎・臨床てんかん学（その関連分野も含む）の発展に寄与するもので、原則として、日本てんかん学会北海道地方会で発表されたものとする。すでに公表されていたり、現在他誌に投稿中の論文は掲載しない。なお、本会学術集会で発表した内容は、日本語の抄録（会議録）として本誌に掲載する。

3) 掲載論文は所定の査読を経たのちに、編集委員会で受理するか否かを決定する。

4) 倫理的側面で問題ない論文を掲載する。

5) 掲載された論文等の著作権は、本会に帰属する。

Presented by Medical*Online